

平成31(2019)年度 事業計画・収支予算の内容 新しい時代を輝く未来に

事業計画

我が国の経済は、米中経済摩擦や英国のEU離脱、日韓問題など懸念要因はあるものの、足元の企業業績は好調で、ゆるやかな景気拡大が続くなど、引き続き堅調な伸びが見込まれています。一方、地方では、いわゆる「一極集中にともなう疲弊」や人口減少、少子高齢化が進行する中、数値的な改善傾向は見受けられるものの、生産活動に勢いはなく、とりわけ中小企業では人手不足の深刻化が増しており、経済の回復や成長を実感できるものではありません。

平成31(2019)年度は、4月に「働き方改革関連法」等が施行され、5月には改元とともに新時代の扉が開きます。そして10月には中小・小規模事業者にも大きな影響を与える「消費税の引き上げ」が予定されるなど、社会経済に極めて重要な年になることが予想されています。また、舞鶴市にとっても“未来を拓くまちづくり”の指針となる「第7次舞鶴市総合計画」が4月にスタートするなど、大きな節目の年になることは衆目の一致するところではあります。

このような中、舞鶴商工会議所の役割は、会員をはじめ、地域全体の声に対し、常に耳を傾け、地域に密着するとともに、柔軟な調整力を持った「地域唯一の総合経済団体」として機能することにあります。舞鶴市の強力な地域資源である「京都舞鶴港の振興」をはじめ、大きな潜在力を有する「農林水産物や、歴史・文化を活かした観光振興」や「国防・海洋の安全」、そしてなにより舞鶴の“ものづくり”を支える造船業、ガラス製造業、環境関連産業などを最大限に活かしながら、「真の地方創生」に向けて力を尽くさなければなりません。

今まさに明けようとする“新しい時代を輝く未来に”するため、平成31年度の舞鶴商工会議所の事業運営にあたっては、役員・議員をはじめ、会員、職員が一丸となって、引き続き、国や府、市との密接で強固な信頼関係を基本に、オール舞鶴で、以下の事業を重点として取り組んでまいりますので、皆さんの更なるご理解ご協力をお願い申し上げます。

基本方針

1. 稼げるまちを創っていくために

私たちの舞鶴は、高速道路網の完成や、京都舞鶴港の機能強化など一連のインフラ整備によって、人流・物流が飛躍的に増加しています。

“まち”や“港”が多くの人やモノで賑わう今こそ、地域にある資源とポテンシャルを最大限に活用し「みんなが稼げるまち」を創っていくチャンスだと考えています。

舞鶴市の交流人口は、平成29年度283万人に達しました。多彩なクルーズ客船の寄港や、赤れんがパークの機能強化などの観光ブランド戦略の推進による観光入込客の増加は、今後も施設の整備充実や受入体制の強化により、さらなる増加が予測されます。

また、当所も誘致を進めていた「NHK大河ドラマ」が、来年の放送として明智光秀を主人公とすることが

決定しました。光秀と親交があり初代田辺城（舞鶴城）城主の細川幽斎公を前面に、「田辺城まつり」やキャラクター「ゆうさいくん」を活かしながら、土産品開発なども含めて、儲かる仕組づくりを考えなければなりません。

稼げるまちづくりを進めていくには、社会資本のさらなる整備が必要不可欠です。京都舞鶴港や道路網の整備促進、さらには、度重なる豪雨災害は、市民生活はもとより、商店街などの様々な事業経営に甚大な影響を与えており、早急な対策が喫緊の課題となっております。これらは、引き続き、国・府に対し要望活動をおこなうとともに、関係機関とともに取り組みを進めてまいります。これからも、商工会議所は私たち「民間」が頑張れる様々な「ビジネス環境」の向上に向け積極的な取り組みを進めてまいります。